

# いい風に吹かれない —高倉健 不器用な旅路—

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也

いまも多くの観光客が訪れる。北海道の夕張市と南富良野町。いずれも映画の舞台だ。夕張では山田洋次監督の『幸福の黄色いハンカチ』、南富良野では降旗康男監督の『鉄道員』が撮影された。ロケ地に集まった人々は亡き主人公の面影を求めて旅してきたといっても過言ではないだろう。

11月で没後10年を迎えた高倉健（1931-2014）は北国のイメージが定着している。実際は九州の炭鉱街で生まれ育った。『幸福の黄色いハンカチ』では炭鉱労働者を演じている。風雪に耐えて一途に生きる男の姿が北の大地によく映えた。

ほとんどテレビに出ず私生活を見せない孤高の大スターは生前から唯一無二の光を放つ伝説的存在となった。旧知の撮影監督は「背中を撮って絵になるのは健さんだけ」と言い切った。人々はなぜ高倉健の背中に魅せられたのか。

## コンプレックスから始まる

高倉は筑豊炭田のある福岡県中間市で生まれた。4人兄弟姉妹の次男で本名は小田剛一。父は海軍の元軍人で炭鉱労働者の監督役などを務めていた。教員の母はしつけに厳しかったという。

太平洋戦争終結後、ボクシングと英語に興味を持つ。当時、遠賀川流域の中間の男たちは気性の烈しい川筋者と呼ばれていた。喧嘩は日常茶飯事で義理と人情を重んじる。旧制東筑中学の親友は高倉を川筋者の典型と評し、表裏がなくひたむき

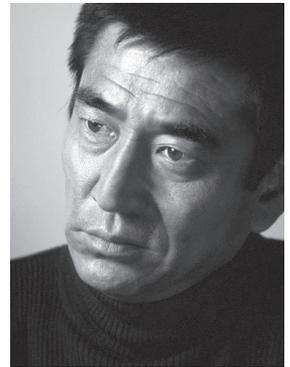
で「こいつには絶対だまされない」と信じていた。その一方でひどく人見知りする面があり、高倉が俳優になるとは夢にも思っていなかった。

明治大学商学部進学後、就職活動で美空ひばりが所属していた大手芸能事務所の面接を受ける。

たまたま居合わせた東映のプロデューサーに俳優としてスカウトされ、東映ニューフェイス第2期生として入社した。演技の経験のない高倉は俳優座養成所で嘲笑され「ほかの人の邪魔になるから見学していなさい」と命じられた。のちに高倉は「屈辱ですよ。僕の俳優人生はコンプレックスから始まったんです」と語っている。

東映は当時、時代劇の全盛期で現代劇の役者が不足していた。身長180cmで見映えのいい高倉は1956年のデビュー作『電光空手打ち』でいきなり主役に抜擢される。撮影所で初めて顔にドーランを塗り、化粧をした姿を鏡で見たとき情けなくて涙が止まらなかった。

華々しくデビューしたものの、人気はそこそこで大ヒット作品もない。芝居の硬さが目立ち暗い翳の漂う高倉を尻目に日活の石原裕次郎が一気に青春スターへの階段を駆け上がる。



高倉 健

愕然としながらも最高の俳優になろうと奮起した。28歳の誕生日にスター歌手の江利チエミと結婚し、12年後に離婚する。その後、再婚はしなかった。江利が45歳の若さで急逝すると毎年、命日の墓参りを欠かさず、花を手向けた。

### あなたに褒められたくて

雌伏のときを過ごしながらも1964年に公開した『日本侠客伝』で高倉の人気はついに爆発する。翌年の『網走番外地』では雪の舞う旅館の粗末な部屋で寝泊まりする石井輝男監督を見て「監督を笑顔にするためなら俺はどんなことでもする」とスタッフに伝え、計18作の大ヒットシリーズになった。『昭和残侠伝』では「死んで貰います」とひたすら筋を通す男の台詞が流行語となる。

折しも1960年代はベトナム戦争などに実力で抗議する学生たちが世界中で決起した。理不尽な仕打ちに耐えに耐え、最後はひとりで巨悪に起ち向かう寡黙なヒーローが喝采を浴びる。映画館に熱烈なファンが押し寄せ、通路まで満杯になり、スクリーンに高倉が登場すると割れるような拍手と共に「待ってました！」と声がかかった。

学生運動の熱気が冷めていく1970年代に東映任侠路線は『仁義なき戦い』のヒットをきっかけに実録路線へ転換する。高倉は1976年に東映を退社し『君よ憤怒の河を渉れ』『八甲田山』『幸福の黄色いハンカチ』に出演してやくざ役からのイメージチェンジを果たす。

テレビドラマにも倉本聰脚本の『あにき』などに出演する。理由を訊かれて「故郷にいる母親に、テレビで自分の顔を見て安心して欲しいから」と答えた。ところが母親が亡くなったとき映画『あ・うん』の撮影中だった高倉は葬儀に出なかった。なぜなのか。「親族の葬儀に一度も参列していないし、それを理由に撮影中止にしてもらったことはない。それはプロとしてのプライドであり、自分に課してきたこと」と打ち明けている。

エッセイ集『あなたに褒められたくて』の巻末の随想は亡き母に捧げられた。いつも故郷で見守っていた母に高倉はこう語りかけている。

「おかあさん。僕はあなたに褒められたくて、ただ、それだけで、あなたがいやがっていた刺青

を背中に描かれて、返り血を浴びて、さいはての『網走番外地』、『幸福の黄色いハンカチ』の夕張炭鉱、雪の『八甲田山』、南極、北極、アラスカ、アフリカまで三十数年、駆けつけてくれました」。

### 人間が人間のことを想う

フリーになってから高倉は撮影が終了すると旅に出るようになった。別れによる深い喪失感を癒やす時間が必要だった。「いい風に吹かれない。きつい風ばかり吹かれていると人にやさしくなれないんです。待っていても、いい風は吹いてきません。旅をしないと」と心境を明かしている。

日中合作映画『単騎、千里を走る。』から6年後『あなたへ』に出演した。撮影中は東日本大震災で被災した少年の写真を台本に貼って持ち歩いた。瓦礫の中、少年は口を固く結んで水の入ったペットボトルを運んでいる。高倉は「被災地を忘れないことを心に刻もうと映画の台本に写真を貼って毎日撮影にのぞんでいました」と手紙を送り「遠くからですが、貴方の成長を見守っています。負けないで！」と励ました。

遺作となる『あなたへ』の撮影終了後、高倉は悪性リンパ腫で83歳の生涯に幕を下ろす。晩年は養女となった小田貴月が高倉を支えた。本人の遺志で近親者による密葬が行われる。

不器用と言われつづけた高倉は撮影に際しても「おなじ芝居を何度も演じることはできません。だから全身全霊で一度の本番にかける。一度きり生きる」と休憩時間も決して座らなかった。酒は飲めず、コーヒーを好み、共演者やスタッフには分け隔てなく挨拶する。任侠路線の転機となった『幸福の黄色いハンカチ』では長い刑期を終えて出所した主人公が食堂でひさしぶりにラーメンとカツ丼を食べるシーンを演じるために2日間絶食した。高倉は「うまい」とは言わずひたすら食べつづける。ほんとうに嬉しいとき・悲しいとき、人は嬉しい・悲しいと口にしない。そして「普段どんな生活をしているか、どんな人と出会ってきたか、何に感動し何に感謝しているか、そうした役者の生き方が芝居に出る」と肝に銘じていた。

「人間が人間のことを想う、これ以上に美しいものはない」と高倉健の無言の背中が語っている。